

## 1年生国語科の実践

### 1 単元名 むかしばなしがいっぱい（全12時間）

### 2 単元目標

○日本や外国の昔話に興味をもち、好きな昔話の本を選んで読むことができる。

○好きな昔話の好きな場面を音読したり演じたりすることを通して、昔話に親しむことができる。

関心・意欲・態度	読む
・日本や外国の昔話に興味をもち、好きな昔話の本を選んで読もうとする。 ・好きな昔話を選び、音読や劇を楽しもうとする。	・場面の様子を想像し、その様子が表れるように、音読したり演じたりする。

### 3 ひびき合う子どもたちをめざすための指導の工夫

低学年ブロックテーマ 「感じる心、素直に表現する自分」

・人の言動に何かを感じる姿

・自分の思いや、他者からの刺激に対し、素直に表現する姿

研究課題「切実な問題意識を持ち、友だちと関わり合いながら学習する子どもの育成」

手だて・・・子どもの「切実な問題」を見とった単元構想と授業づくり

#### (1) 単元と指導

##### ①単元について

この単元は、主に、学習指導要領の内容の〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)アの(ア)に基づいて設定している。

(ア) 昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすること。

本を読む楽しさは、本を通して様々な擬似体験をすることができたり、いろいろな知識を得られたりするところにある。本単元で扱う日本や世界の昔話は、昔の人や外国の人の生活・文化に触れることができ、日常生活から児童の世界をぐんと広げてくれる。また、昔話の中には、様々な魅力的な人物が登場し、どきどきわくわくする出来事が起こったり、ふしぎな出来事やあり得ない出来事が起こったりする。これらの登場人物の様々な体験に触れることは、児童の心の糧となるだろう。

本単元を通して、児童には、いろいろな昔話にたくさん触れて昔話のおもしろさを感じてほしいと願っている。たくさんのだきどきわくわくする出来事に出会い、胸躍らせて物語を読み進めて欲しい。そしてこれからも昔話やいろいろな楽しい物語を読んでいこうとする意欲をもてるようにしていきたい。

また、指導要領解説には、「C読むこと」(2)の「イ 物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりすること。」と関連付けて、

初歩的な語りや劇、紙芝居などによる発表活動を工夫するようにすると効果的である。

と書かれている。

本単元では、昔話を時間をかけて存分に読み味わった後、おもしろかった昔話を読み聞かせや劇などで友達に紹介する活動につなげていく。本学級の児童は音読や劇が大好きである。気に入った昔話を音読したり劇にしたりするなかで、さらに昔話の世界に浸り、楽しむことができると考える。そこでは、一人で読む楽しさから発展し、友達と一緒に読んだり演じたりする楽しさも味わうことができる。「おおきなかぶ」や「くじらぐも」での経験をふまえ、「気に入った昔話を上手に読み聞かせたい(演じたい)」という思いをもって、場面の様子や人物の気持ちを豊かに想像し、その様子が表れるように、上手に音読したり演じたりする力を伸ばしてほしいと願っている。

##### ②指導について

本単元では、まずはいろいろな昔話に触れ、昔話のおもしろさを存分に味わわせたい。そのために、教科書の挿絵で紹介された昔話やその他の魅力的な昔話を、図書館や図書室で借りて教室にできるだけ多くそろえ、児童がいつでも手に取れるようにする。また、「どくしょけいかく」を書くことで、読書意欲を喚起したり、「おはなしにつき」で、個々の児童の読書傾向をつかんだり、記入された感想を全体に広げて読みたい昔話を選ぶ参考にさせたりしていく。さらに、校内読書週間、読書タイムなどを活用し、児童がいろいろな昔話を読む時間を十分に確保するようにする。昔話は読みやすいように平易に

書かれたものもあるが、独特の語り口や方言で書かれたものも、味わい深く、ぜひ児童に触れさせたい。また、1年生の児童は読解力がついてきたとはいえ、まだまだ自分で読むよりも、読み聞かせてもらった方が、物語を深く読み味わうことができるであろう。そこで、教師や図書ボランティアさんの読み聞かせを聞く機会を設け、児童が独特の語り口やそのおもしろさに気がつくことができるようにするとともに、昔話のおもしろさを十分に味わえるようにしていきたい。

昔話には、児童の日常とかけ離れた空想的な出来事がたくさん登場する。こうした昔話はそれそのものが、児童の興味を引き、知的好奇心を大いに喚起するものである。導入で、いろいろな昔話の題名やストーリーを話し合う中で、児童は、「知らない昔話があった。読んでみたい。」「読んでもらったことがあるけど忘れちゃった。読みたい。」という気持ちになるだろう。さらに昔話を読む時間を保障したり、読み聞かせを聞いたりするなかで、「昔話ってたくさんあるんだな。」「昔話っておもしろいな。」「もっと読みたいな。」という思いをもったり、「わたしはかわいい女の子が出てくるお話が好きだな。」とか、「ぼくは『桃太郎』や『一寸法師』みたいに鬼をやっつけるお話が好きだな。」と、自分の読書傾向に気が付いたりしていくだろう。また、『はなさかじいさん』は『はなさかじい』っていう題名の本もあるんだね。」とか、『舌切りすずめ』ですずめのところに後から行ったおばあさんは大きなつづらを選んで、蛇や蛙が出てきたよ。『はなさかじいさん』でも、隣のおじいさんとおばあさんはまねをしてもいいものが出てこないから似ているね。」など、いろいろな昔話の共通点などに気が付いて読み比べる楽しさを発見する児童もいるだろう。こうした気付きは昔話を読む際の「知的好奇心」につながっていく。これらの気付きや感想を交流する場を設け、いろいろな昔話をもっと読みたいという意欲につながっていききたい。

色々な昔話をたくさん読み、気に入った昔話を見つけたり、教師や図書ボランティアさんの読み聞かせや紙芝居、素話などを聞いて自分もやってみたいという思いをもったりする中で、「昔話を読み聞かせや劇にして楽しみたいな」という思いをもつだろう。音読や劇が大好きな本学級の児童は、ペープサートや紙芝居などの新しい方法も紹介することで意欲的にこの課題に取り組めると考える。

読み聞かせや劇にしたい昔話やその場面、方法を決める際には、なぜそれがいいと思うのかを明確にし、こだわりをもって選べるように声をかけていく。お話の最初から最後まで全部やりたいという思いをもつ児童もいるであろうが、練習時間や発達段階を考え、選ぶ場面は限定したい。表したい方法についても、その方法についての経験などから選ぶ児童もいると思われるが、選んだお話の内容によって、ふさわしい方法が違ってくことに気が付けるようにし、適切な方法が選べるように支援していく。また、ペープサート等の小道具を作る時間を図工の時間を使って確保することで、存分にお話の世界に浸れるようにしたい。これまでの学習を生かして工夫している児童の様子などを全体に広め、よりよい楽しみ方ができるように支援していく。

存分に読み聞かせや劇を楽しんだ児童は、みんなに見てもらいたい、聞いてもらいたいという思いをもつだろう。ここでは、互いの劇や読み聞かせを見あう・聞き合う中で、音読の工夫や技能のよさだけでなく、「ぼくも、そのお話読んだよ。僕は、～のところが好きだよ。」「このお話、この後どうなるの?」といったお話の内容についての交流ができるように声をかけたい。そうした交流が、さらに次なる読書意欲へとつながると考えるからである。

### ③「知的好奇心」と「切実な問題」について

「昔話っておもしろいな」という知的好奇心を出発点としていくつかの昔話に触れることを通して、児童は「もっと昔話を楽しみたい」という願いをもつだろう。おもしろかった昔話をもっと楽しむ活動では、「ボランティアさんのように上手に読み聞かせたい。」「友達と一緒に気に入った昔話を劇にして楽しみたい。」という思いが生まれ、表現方法の工夫を考えるだろう。自ら表現することで、より主体的に昔話に関わることになり、この段階で、「知的好奇心」は「切実な問題」へと変わっていくと考える。

### ④ひびき合いについて

本単元において「ひびき合う」姿とは、「友達の昔話を讀んだり演じたりすることを存分に楽しんだり工夫したりしている姿に刺激を受け、自らもそれを楽しもうとする姿」と考える。練習する場面やみんなに発表する場面そのような姿が見られたとき「ひびき合い」としたい。

4 単元指導計画（全12時間+図工6時間）

	学習活動	主な支援・留意点【評価】
1	絵の中に昔話がいっぱい隠れているよ。どの昔話をしているかな。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の挿絵を見ながら、知っている昔話の題名や内容を自由に話し合う。</li> </ul> <p style="text-align: right;">【関心・意欲・態度】</p>
2 3 4	<p>昔話を読もう（読んでもらおう）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「どくしょけいかく」「おはなしにつき」を書こう。</li> <li>○図書ボランティアさんが読み聞かせに来てくれたよ。読んでもらおう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2週間程度の期間を取り、朝の読書タイムなどでいろいろな昔話を読んだり、読み聞かせを聞いたりする時間をたっぷり設けるようにする。</li> <li>オープンスペースの机に昔話の本を常時並べておき、いつでも手に取って読めるようにする。</li> <li>感想や気が付いたことを交流する時間を設け、次に読みたい本を選ぶ際の参考になるようにする。</li> </ul> <p style="text-align: right;">【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同時期に図工で「好きな昔話の絵を描こう」を行い（4時間）、昔話にさらに親しめるようにする。</li> </ul>
5 6 9	<p>昔話を読み聞かせや劇にして楽しもう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○どのお話にしようかな。</li> <li>○どの場面がいいかな。</li> <li>○どんな方法で発表しようかな。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせ</li> <li>・劇</li> <li>・ペープサート</li> <li>・指人形</li> </ul> </li> <li>○役割を決めよう。</li> <li>○みんなに見せたいな。聞いてもらいたいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教えたい昔話について個々にワークシートに書き、自分の教えたい昔話へのこだわりをもたせる。</li> <li>教えたい昔話について情報交換をしながら、同じお話を教えたい子同士でグループを作ったり、劇をやりたい子がメンバーを募ったりし、グルーピングする。一人でやる子も認める。</li> <li>読み聞かせや劇をする場面、方法を選ぶ際には、伝えたいおもしろさが伝わる場面、方法を考えて選べるように声をかける。</li> <li>準備時間、発達段階を考え、選ぶ場面が長すぎないように声をかける。</li> <li>お面やペープサート、指人形、小道具などを作る時間を図工でとり（2時間）、お話の世界に入りこんで読み聞かせや劇を楽しめるようにする。</li> </ul> <p style="text-align: right;">【関心・意欲・態度】【読む】</p>
10 11 12	<p>みんなに見てもらおう。聞いてもらおう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○発表会をして、感想を話し合う。 (本時11/12)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>声の大きさや劇の出来といった技能面だけでなく、お話の内容のおもしろさや気に入ったところなどが話し合えるように声をかける。</li> </ul> <p style="text-align: right;">【関心・意欲・態度】【読む】</p>

## 5 単元構想

絵の中に昔話がいっぱい隠れているよ。どの昔話を知っているかな。

- ・「桃太郎」。幼稚園のとき、劇でやったよ。
- ・「花さかじいさん」。「かちかち山」。「かさじぞう」。「したきりすずめ」。「雪女」…
- ・「さるかにがっせん」。違うよ、「さるかにばなし」だよ。違う違う、「かにむかし」だよ。
- ・「金太郎」。金太郎って題名は知っているけど、どんな話だっけ？
- ・こっちの絵は、たぶん知っているんだけど、題名がわからないよ。
- ・いろいろな昔話があるんだな。知らないお話もあった。
- ・読んでもらったことがあるけど、どんなお話だったか忘れちゃった。

- ・こっちの絵にもお話がいっぱいあるよ。
- ・「シンデレラ」って昔話？
- ・外国の昔話なんだ。
- ・「ジャックと豆の木」「マッチ売りの少女」「みにくいアヒルの子」「はだかの王様」「ブレーメンの音楽隊」…
- ・いっぱい知っていたよ！
- ・でも知らないお話もある。

読んでみたい！もう1回読みたい！

オープンスペースの机に昔話の本を常時並べておき、いつでも手に取って読めるようにする。

いろいろな昔話を読もう。

読書タイムなどを利用し、教師の読み聞かせをしていく。

- ・かぐや姫がかわいいな。
- ・一寸法師のお椀の船に、ぼくも乗ってみたいな。

・「したきりすずめ」で最後におばあさんは大きいのを選んだけど、蛙が出てきたところがおもしろいな。

「どくしょけいかく」「おはなしにっき」を書こう。

好きな昔話の絵を描こう。(図工④)

- ・読みたいお話がたくさんあるよ。もっと書きたい。
- ・うちからも本をもってこるね。

図書ボランティアさんが読み聞かせに来てくれたよ。読んでもらおう。

- ・ボランティアさん、読むのが上手だな。ぼくもあんなふうに読みたいな。
- ・ボランティアさんが読んでくれた本、おもしろかった。

昔話っておもしろいな。

- ・「へっこきあねさ」っておもしろいよ。おならで柿が取れるんだよ。
- ・「一寸法師」は、針で鬼のお腹の中をちくちく刺しちゃうんだよ。
- ・「かちかち山」で悪いことしたたぬきは背中に火を付けられちゃうよ。

- ・おもしろかった昔話のことをみんなに教えたいな。
- ・ボランティアさんみたいに読み聞かせがしたいな。
- ・ぼくは劇をやりたいな。

昔話を読み聞かせや劇にして楽しみたいな。

どのお話にしようかな。

- ・「親指姫」がいいな。
- ・「桃太郎」がいい。
- ・〇〇ちゃんと同じだ。一緒にやろう。

自分の好きな昔話へのこだわりをもたせたい。

- ・それぞれの昔話の面白さが伝わる場面を選べるよう声をかける。
- ・準備時間、発達段階を考え、選ぶ場面が長すぎないように声をかける。

どの場面がいいかな。

- ・「ねずみの相撲」でおもちを食べたら強くなるところがいいな。
- ・「ブレーメンの音楽隊」で、みんなで泥棒たちを驚かすところがいい。

読み聞かせがいいかな。劇がいいかな。それとも…

- ・先生やボランティアさんみたいに上手に読みたい。読み聞かせがいいな。
- ・「大きなかぶ」みたいに劇がしたいな。
- ・ペープサートなら、空を飛んだりもできるね。

役割を決めよう。

- ・お面を作ろう。
- ・ペープサートを作ろう。
- ・指人形を作ろう。

(図工②)

みんなに見せたいな。聞いてほしいな。

- ・もっと大きな声で読もうよ。
- ・つかえちゃうな。言葉が難しい。おうちでも練習しよう。
- ・せりふを忘れちゃうな。もっと練習しなくちゃ。
- ・少しくらいせりふが変わってもいいんじゃないかな。

- ・もっと気持ちをこめてせりふを言おうよ。
- ・～のところ、～に動いた方がいいんじゃないかな。
- ・～のところにせりふをつけたそうよ。

みんなに見てもらおう。聞いてもらおう。(本時)

- ・〇〇ちゃんの読み聞かせ、気持ちがこもっていてすごく上手だった。すごいな。
- ・〇〇ちゃん達の劇、すごく楽しそうよかった。
- ・その後、〇〇はどうなるの？
- ・ぼくも、このお話読んだよ。～のところがおもしろいよね。
- ・みんなに読み聞かせを聞いてもらえてうれしかった。上手にできてうれしいな。

いろいろな昔話を読んだり、劇にしたりして楽しかったな。これからもいろいろな昔話やお話を読んでいきたいな。

## 6 本時案（別紙）

### 7 実践を終えて

#### （1）単元構想と学習の実際

単元構想では「いろいろな昔話を読もう」と「昔話を読み聞かせや劇にして楽しみたい」の2段階でこの単元の構想をたてた。

初めの「いろいろな昔話を読もう」では、子ども達がいろいろな昔話を興味をもって読む姿が見られた。その中で「昔話ってこんなにおもしろかったんだ。」「幼稚園では読んでもらっていたけど、自分で読めるようになってうれしい。」などの言葉が子ども達から出てきた。市立図書館や校内の図書室などから借りて、50冊近い本を教室に揃えたことで、子ども達はとにかくいろいろな昔話に手を伸ばし読んでいた。「どくしょけいかく」「おはなしにつき」などの記録を書くことを投げかけたことも、読書意欲を喚起するのに有効だった。この記録は、単元が終わった後も、読書タイムなどで本を読むと進んで書く姿が見られる。

そして何より子ども達が喜んだのが、図書ボランティアさんによる読み聞かせだった。自分の読んでもらいたい本をリクエストして少人数（中には1対1）での読み聞かせ。紙芝居や大型絵本、ペープサート、素話など、多様な方法での読み聞かせ。この読み聞かせの後、「素話がすごかった。自分もやってみたい。」「自分も読み聞かせをしたい。」という声上がり、これが構想の2段階目、「昔話を読み聞かせや劇にして楽しみたい」に自然につながっていった。

この段階で初めの構想と少し違っていたのが、読み聞かせる分量である。子どもの読む力や練習の大変さから、あまり長い分量では意欲の低下につながるのではと考え、場面を限定させたいと考えていた。しかし、「お話を最初から最後まで通して読みたい」という思いをもったグループがいくつかあった。挑戦させてみると、長い文章を、終わりまで読むではまた最初からと、何度も何度も読んで練習する姿や、教師の予想をはるかに上回る滑らかさで想像以上にすらすらと、また気持ちを込めて読む姿に出会うことができた。

また、初めの構想では、みんな一斉に読み聞かせやペープサートを聞き合う（見せ合う）時間を取ろうと考えていたが、実際は、納得いく練習ができ、見せたい、聞かせたいという思いをもつタイミングはグループごとにまちまちであった。そのため、その思いをもったグループからみんなに声をかけて見てもらおう（聞いてもらう）という形に構想を修正した。そして、見てもらったり、聞いてもらったりしたグループは、「アドバイスもらったからもっと練習したい。」という思いをもつもう1度練習を始めたり、「今度はペープサートがやりたい。」「他のグループを手伝って一緒にやりたい。」「いろいろなグループの練習を見てアドバイスをしたい。」などの思いをもって活動が変わったりした。

#### （2）成果と課題

今年度は、年度の早い段階で本単元で「いろいろな昔話を読み聞かせや劇で楽しませたい」という見通しをもつことができた。そのため、それまでの様々な単元でグループでの音読や劇の経験をたくさん積むようにしてきた。その中で、「友達と一緒に声に出すことそのものを楽しむ。」ことから、「声の大きさや速さ」「声色を変えて読むこと」などの工夫も積み重ねていくことができた。グループでの活動の仕方も少しずつ身に付いた。また、発表を聞いたら（見たら）感想やアドバイスを話し合うという学習スタイルも自然と定着した。本単元では、お話のおもしろかったことやすきなところを発表し合うことで、みんなでひとつの昔話を楽しむことができた。

本に親しむことについても、年間を通して、読み聞かせをする機会を多く設けたり、学級文庫を充実させるように心がけたりしてきた。こうした積み重ねが本単元での昔話を楽しんで読む姿や、読み聞か

せや劇を楽しむ姿につながったと思う。

課題としては見とりと支援の難しさがあげられる。グループに分かれて読み聞かせやペープサート等の劇をしていると、毎時間ひとりひとりの活動の様子を把握するのは難しい。時間ごとに見とりたい児童・グループ、各グループへの支援等を用意して授業に臨むようにしたが、やはり十分ではない点もあった。また、座席表を用いての、児童間の関わり合い、高まり合いについても、もっと意識して仕組んでいくことができたのではないかと思う。この点について、もっと研究を深めていきたいと思う。